

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医 学） 氏 名 岡田 栄作

主査 教授 寺沢 浩一
審査担当者 副査 教授 武蔵 学
副査 教授 荒戸 照世
副査 教授 玉腰 暁子

学 位 論 文 題 名

日本人労働者の職業性ストレスとメタボリックシンドローム (MetS)
発症リスクに関する疫学研究

申請者は、男性公務員 1584 名を解析対象とし、職業性ストレスの中でも、報酬不満足が、6 年後の MetS の新規発症リスクであることを報告した。報酬不満足ストレスは、生活習慣や食習慣と関連し、特に睡眠や甘いものをたくさん食べるというこれらの介在因子もまた、MetS 発症に影響を与えていた。

審査において、荒戸教授からは、職業性ストレスは変化しづらいという指摘に加え、職業性ストレスに対しての対策などについて質問があった。武蔵教授からは、曝露の時期に関する質問と家庭状況や性格特性などの要因に注目することも重要ではないかとの指摘があった。玉腰教授からは、結論は適当であったのか、また、申請者自身が果たした役割について質問があった。寺沢教授からは、個人差にも焦点をあてることも重要ではないかという指摘と低ストレスの MetS 発症への影響について質問があった。申請者は、荒戸教授の質問に対して、社会的要因をケアすることが重要であること。また、個人のストレス対処能力なども含めて議論する必要があると述べた。武蔵教授の質問には、曝露要因の時間軸については、確かに課題であること。今後は、家庭状況、性格特性なども調査内容に含めることの重要性を認識し、発展させていくことを述べた。玉腰教授の質問には、解析方法を工夫し、結論をより説得力のあるものにすることを述べた。申請者自身の役割は、研究に協力頂いた自治体職員と協力し、共に MetS を予防できる取組作りを提案したと述べた。寺沢教授の質問に対しては、低ストレス、高ストレスという議論だけではなく、今後は、職業性ストレスは適度な刺激として、中程度の影響も検討していく必要性を述べた。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。